

議会運営委員会 委員会視察報告

令和6年5月23日

委員長 川名 ゆうじ

視察行程 令和6年4月18日
茨城県取手市（オンライン視察）
オンライン委員会について

視察者 委員長 川名ゆうじ
副委員長 木崎 剛
委員 大野あつ子、深田貴美子、宮代 一利、与座 武、橋本しげき、山本ひとみ
西園寺みさこ
議長 落合 勝利
副議長 ひがしまり子
委員外議員 道場ひでのり、きくち由美子、東山あきお、本多 夏帆、浜田けい子、菅 源太郎
さこうもみ、藪原 太郎、山崎たかし、三島 杉子、深沢 達也

議会運営委員会（令和6年4月18日）

日 時	令和6年4月18日 午後1時30分から午後4時まで
視察先	茨城県取手市
テーマ	オンライン委員会について
目 的	オンライン出席が可能な会議の概要と効果、デジタル技術を活用した議会運営を調査し、今後の議会改革の参考とする。
内 容	<p>取手市議会は、令和元年度に従来の採決システムの動作が不安定であったことから、電子採決と議会のペーパーレス化を目的にタブレットの導入検討を始めた。導入は令和2年8月だが、令和2年4月7日に緊急事態宣言が出されるなどコロナ対策が急務となり、導入を待たず個人のパソコンなどを使用し、Z o o mによる災害対策会議を令和2年4月8日に開催した。コロナ禍では、議会災害対策会議を計29回オンラインで開会した。</p> <p>オンライン会議は、常任委員会、議会運営委員会、特別委員会、会派代表者会議などの議会内の会議だけではなく、視察、議案説明、市民との意見交換でも行われ、令和3、4年度では、全体の半分を超える回数をオンライン会議で開催し、インターネットによる市民への公開も行われた。</p> <p>また、オンライン会議の開催に必要な委員会条例、会議規則の改正も行われており、疾病、看護、育児などの理由でもオンライン出席を可能とした。</p> <p>ほかに、タブレットを活用した電子採決や委員会傍聴用に360度カメラを導入し傍聴者が希望するところを自由に視聴できること、ペーパーレスが基本となっていること、生成AIの活用を含めた文字データの機能による会議録作成の効率化、オンラインでのリアルタイム字幕への活用など、デジタル技術の活用もされている。令和5年6月に規則を改正したことで、本会議においてオンラインによる一般質問も可能としたため、今後展開を考えている。</p> 
成果（参考になった点）、課題等	<p>成果（参考になった点）、課題等</p> <p>課題は、通信が途絶された場合などへの対応があり、オンラインのみの委員会が開会できていないことである。整理が難しい会議（秘密会、記名式選挙）では難しいとのことだったが、全体から見てこれらの比率は小さい。昨年からはオンライン会議の数が少なくなり、急きょ開催になったことへの対応には「慣れ」が必要で、復習をしていくことも必要とされていた。</p> <p>取手市議会による説明では、オンライン会議はケースバイケースで、集まれる時は集まり、集まれないのであればオンラインで行うのがベストではないかとのことであった。取手市議会ではオンラインで会議を行うことについて事務局からの説明や指導があり、反対する議員はほとんどいなかった。実際にけがをされた議員がオンラインで会議に参加できた事例があったことや、令和5年6月の大雨災害の際はオンラインで議会災害対策会議を開催した事例もあり、感染症対策以外でも活用できる事例も紹介されていた。</p>

武蔵野市議会では、既にオンライン会議が可能なタブレットを導入していること、非公式な会議ではオンラインによる開催を可能としていること、総務省からオンライン会議による委員会の開催が差し支えない旨の通知があること等も考えると、常任委員会等、正規の会議で必要なときに開催できる手法等について、今後も検討を続けたい。